

子どもの立場から 京都での子育て環境をよくしたい

京都市会議員 とがし豊



私には1歳・3歳・5歳の子どもがおります。子育ての大変さというものを痛感させられたのが、二人目の出産の前後でした。それまでも積極的にかかわってきたつもりでしたが、二人目の出産のために妻が入院し、家に残された私は家事・育児の一人で行わなければならなくなり、はじめて自分自身が子育てのごく一部しかやっていたことに気づかされました。以来、家事・育児へのかかわり方が大きく変わりました。

最近はというと、家に帰ると長女・次女・長男が散らかした玩具や紙くずを片付け続けながら、間に合えば子どもを風呂に入れる。寝静まったら、保育園から持ち帰る3人分の服の洗濯などに毎日追われ、その隙間に持ち帰った仕事をする。炊事全般とエネルギー有り余る子どもたちの相手の大半は妻がしてくれています。一方、子どもたちからは、家から出かけるたびに「お仕事いかんといて」と泣きさげられます。帰宅するたびに「もうお仕事終わった？」と聞かれ、終わったと告げると大喜び。子どもにとっては親との時間が一番大事なのだと痛感させられます。



↑子どもたちにキャラクター弁当をつくってあげるのが私の趣味。

そんな子育ての中で得た実感を力に、私は市議会の中でも雇用・福祉・環境の問題に取り組んできました。

【こんな京都を実現したい——私の提案】

① 親と子どもが接する時間を増やせるように労働条件を改善する

ブラック企業・ブラックバイトと呼ばれる過酷な働きかを改善、不安定雇用を安定雇用へと転換するため、実態調査や制度改善を求める。

② すべての子どもたちの命を最優先に大事にする京都へ

現在3歳までの医療費が実質無料ですが、これを中学校卒業まで拡大させる。

③ 子育ての出発点をささえる保育体制を充実させる。

公立保育所の廃止方針は撤回し、保育所を増やして900人近い待機児童を解消する。保育所なしの生活など想像がつきません。これは本当に切実です。

④ 子どもたちの未来を真剣に考えた政治に徹する

厳しい財政の中でも、子育てと福祉を充実させるため、無駄遣いをしっかりたす。

子ども達の世代に放射性物質を押し付け、迷惑をかける原発はただちに廃炉させる。